

<情報解禁は8月14日(木)AM10:00になります。ご注意ください>

スペインの鬼才 ROSTO 追悼上映 <存在証明>

ROSTO の生きざまに共鳴した末永賢監督による※1

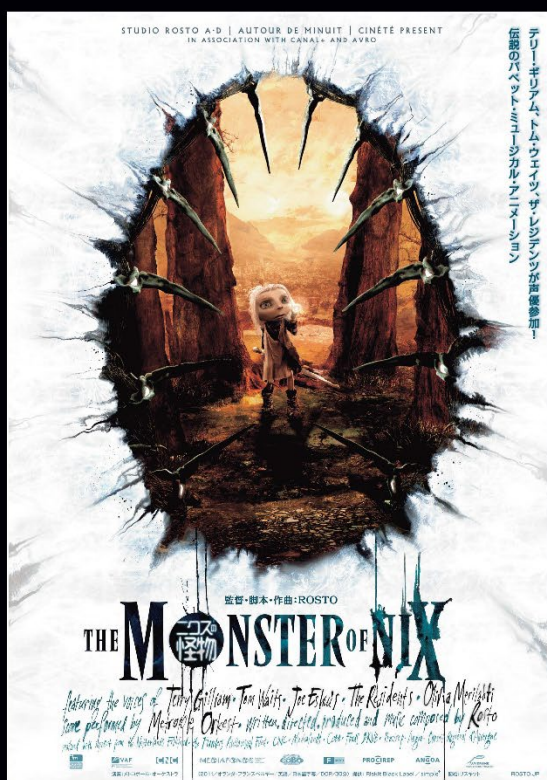
縦型オマージュ映像12編が完結！

すべてを閲覧できる特設サイトがオープンしました！

※1 『頭脳警察 50 未来への鼓動』監督

2019年に50歳の若さで急逝したスペインの鬼才 ROSTO を偲んで

8月16日(土)より渋谷イメージフォーラムで開催される ROSTO 追悼上映<存在証明>



ROSTO追悼上映<存在証明>

『四つの悪夢』とドキュメンタリー、『ニクスの怪物』

8月16日(土)より
先行上映
ROSTO.JP

R0ST0 の生きざまに共鳴した映画監督末永賢による

縦型ショート・オマージュ映像 1 2 編が完成。

そのすべてを一挙に見られる特設サイトがオープンしました。



<https://rosto.jp/movie.html>

縦型オマージュ映像 1 2 編は、R0ST0 のダークで想像力溢れる映像をベースに、各テーマに因んだ詩的なメッセージを組み込んだ映像詩となっています。



N2_FANTASIA



W7_悪いが俺たちは死に過ぎている



ようこそ、R0ST0 の夢世界へ by 末永賢

『ニクスの怪物』へのオマージュ映像 (2編)

N1_DYSTOPIA/N2_FANTASIA

『四つの悪夢』へのオマージュ映像 (10編)

W1_夢と現実/W2_真摯なる脱出/W3_孤独な骨を鳴らせ/W4_旅の逆説/W5_幻への挽歌/W6_箴言と再生/W7_悪いが俺たちは死に過ぎている/W8_鋭利な断片について/W9_沈む迷宮/W10_冥界の囁き

<末永賢プロフィール>

映画監督・末永賢のプロフィール



末永賢（すえなが・けん）劇映画界で鈴木清順、小沼勝ら鬼才の門下を経て監督活動を開始。実録映画『日本犯罪秘録・チ 37 号事件』『長官狙撃』などを手がけ、社会派の視点と骨太な演出で注目を集める。近作は長期取材を経て伝説のパンクバンド「頭脳警察」を追った『zk／頭脳警察 50 未来への鼓動』。音楽と歴史認識の弾道を交叉させ、時代に放射されつつ闘う頭脳警察の側面に肉薄した、実録とフィクションを自在に往来し時代と人間の深層を描く、との評価もあるが本人は「映像作家」の肩書きを嫌い「活動屋」を称する。次回作は棟方志功と近代史を穿つ作品という情報があるが未詳。

<末永賢監督コメント>

ぼくらには既に R0ST0 と語り合う機会を失っているのだろうか？

答えは否だ。彼が刻みつけた映像と音楽、その修辞法を前に言語は不要だ。魂が漂うのが、あの世なのかこの世なのかは大きな隔たりではない。そう、R0ST0 の発する微動は今もぼくらの傍に振動しているはずなのだ。それを感じるか否かが大きな差異なのだろう。しばしの間、そんな闇に身を浸してみるのも悪くはないはずだ。亀裂はすぐそこにある。

限定豪華本“Mind My Gap”も緊急入荷

上映作である『四つの悪夢』とドキュメンタリーは、ROSTO の死後、アカデミー賞受賞短編『LOGORAMA』や『ユニコーン・ウォーズ』のプロデューサーとして知られるニコラス・シュマーキンによってヨーロッパ各地で上映されました。

ニコラスはまた、ROSTO が16年間にわたりオンラインで発表し続けていた作品群を、210頁のグラフィック・ノベルと2枚のCDを含んだ“Mind My Gap”という豪華限定本として出版しています。

(劇場および特設サイトにて販売予定。)



以下、ROSTO 追悼上映＜存在証明＞の概要です

ROSTO 追悼上映「存在証明」の概要

企画意図：

2019年に急逝したオランダの映像作家・アーティスト ROSTO の作品を日本で初めてまとめて紹介する企画

会場：東京・シアター・イメージフォーラムで先行公開

上映作品

- ① ROSTO の遺作『四つの悪夢』、
- ② 短編ドキュメンタリー『すべてが変わったようで、何も変わっちゃいない』、
- ③ パペット・ミュージカル・アニメーション『ニクスの怪物』の3作品を同時上映(全95分)

イメージフォーラム作品案内

チケット料金 一般 1,900 円、大学・専門学生 1,400 円、60 歳以上 1,400 円、会員 1,300 円、障がい者割引 1,300 円。毎月1日と毎週月曜日は一律 1,300 円 imageforum.co.jp。

上映作品の詳細

1. 『四つの悪夢(Thee Wreckers Tetralogy)』



・2020 年製作。フランス・オランダ合作で上映時間 45 分>

・英題は Thee Wreckers Tetralogy

・作品内容 – ROSTO が約 15 年かけて作り上げた短編 4 部作を再編集した作品。彼がかつて在籍していた幻のパンクバンド〈THEE WRECKERS〉の“存在しないレコードのミュージック・ビデオ”として、

“No Place Like Home”(2008)、“Lonely Bones”(2013)、“Splintertime”(2015)、“Reruns”(2018) の 4 本で構成される。

・背景・制作 – 1990 年代から自らのスタジオ ROSTO A.D’ を拠点に『Mind My Gap』というマルチメディアプロジェクトを展開していた ROSTO は、これらの短編を“存在しない音楽映画”として制作した。作品は 2019 年に病気で他界した後、盟友でプロデューサーのニコラス・シュマーキンが四部作をまとめて再編集し、『四つの悪夢』として世界各地で追悼上映された。

・押井守審査委員長 第 1 回新潟国際アニメーション映画祭で「境界賞」を受賞

2. 『すべてが変わったようで、何も変わっちゃいない』



・2020 年製作の短編ドキュメンタリー。フランス・オランダ合作。20 分

・監督 - ジョアン・コスタ&ローベン・グラディセン。

・内容 - ROSTO の創作人生を追った作品で、本人やバンド〈THEE WRECKERS〉が登場する。四部作完成の背景や彼の多彩な活動を記録しており、追悼上映に合わせて上映される。

3. 『ニクスの怪物(The Monster of Nix)』



・ 2011 年製作。オランダ・フランス・ベルギー合作 30 分

・監督・脚本・作曲 - ROSTO が監督・脚本・作曲を務めたパペットと CG を組み合わせたミュージカルアニメーション

・物語 - のどかな村ニクスで“すべてを食いつくす怪物”が現れ、少年ウィーリーがひとりで立ち向かう。怪物に連れ去られた祖母を探すため魔法の森へ足を踏み入れ、不思議な出来事に翻弄されながら真実に近づいていく。

・キャラクターと声の出演 - ウィーリーを助ける臆病なレンジャーの声をテリー・ギリアム、黒い鳥バージルの声をトム・ウェイツが担当する。ROSTO と親交の深いアーティストが声優として参加しており、音楽は彼自身が作曲し、メトロポール・オーケストラが演奏している

・制作背景 - ROSTO が 5 年の歳月をかけて制作した伝説のパペット・ミュージカル・アニメーションで、彼の代表的な複合メディアプロジェクト「Mind My Gap」のキャラクターも多数登場する。2019 年に急逝した彼の才能が凝縮された作品として評価されている。



ROSTO 監督の経歴

・オランダ出身の映像作家 ROSTO はグラフィックノベル、音楽、映像を横断した多彩な活動で知られ、カンヌ国際映画祭など多数の映画祭で短編作品が受賞した。1990 年代から複合メディア企画「Mind My Gap」を展開し、映像と音楽の境界を曖昧にする革新的な試みに取り組んでいた。

シアター・イメージフォーラムで 8 月 16 日(土)から始まる ROSTO 追悼上映〈存在証明〉では、遺作『四つの悪夢』、彼の創作人生を追う短編ドキュメンタリー『すべてが変わったようで、何も変わっちゃいない』、そして伝説のパペット・ミュージカル・アニメーション『ニクスの怪物』の 3 作品が同時上映される。各作品の詳細やチケット情報は上記の通りであり、ROSTO の世界観と彼の多彩な才能に触れられる貴重な機会となっている。

関連写真は以下からダウンロードをお願いします

<https://qr.paps.jp/TK26R>

■本報道資料についてのお問い合わせ先

【作品について】 リスキット 担当:金子 090-7414-5875 gaku0615@gmail.com

【報道資料内使用写真データ/予告編データ】下記よりダウンロードをお願いします

<https://qr.paps.jp/TK26R>



または

<https://drive.google.com/drive/folders/1ZOsbAWGqS9O-Q 3u60DA6sT56JC2bJqD>

【オンライン試写のご案内】

本報道資料掲載の ROSTO 監督

『四つの悪夢』と『ドキュメンタリー』

『ニクスの怪物』のオンライン試写をご希望の方は

riskit.jp の HP の応募フォームから または info@riskit.jp にて申請ください

お名前

媒体名（掲載可能性媒体/未定可）

試写ご希望の作品名